

再び、超希釈尿療法

一年前にこの欄で「超希釈尿療法」について、初めて公開しました。治療法がないとされる症状や病気にも有効である場合があり、何より安全で安価です。

余りにも多岐にわたる病気の原因と向き合ってきた者として、何かもっと安全で全てに有効な治療法はないものだろうかと考え続けていました。そんな時、ホメオパシーの考え方に会ったのです。ホメオパシー療法を発見した S.C.ハーネマンは「同種のもの同種のものによって治る」という原理を治療に適用していったのですが、ワクチンも、経口免疫療法も実はそういった考えから出てきた治療法と思われるのです。

1 mgの卵が卵アレルギーの方には最適（その人の体に最も必要な量）であつたりしますが、卵アレルギーが無ければ毒にも薬にもならない量です。同様に牛乳アレルギーでも、0.1や0.01 mgが最適であつたりします。卵アレルギーには卵が、そして牛乳アレルギーには牛乳が必要なのです。問題はその量なのです。ハーネマンは極微量を必要量としています。

通常のホメオパシーの薬（レメディ）は10の30乗倍の薄さです。翻って私が先に提案した「超希釈尿療法」は約1億倍です。100倍に薄めていくのを4回繰り返すだけです。10の8乗です。しかし尿のなかに出てくる段階でかなり薄まっています。そのためか100億倍にしても1兆倍にしても1億倍と比べても、そんなには変わらない方がほとんどです。中には100億倍にしてからメンタル的にもすごくよく効くと報告して下さる方もいますので、お試しくださってもいいですね。

ここで何故尿なのか、と問われると思いますが、実は尿にはおびただしい量の情報が入っているのです。自分が食べ、呼吸し、接触したものすべて、体のなかの情報です。血液をろ過して出てきたものですから、本来、細菌はありません。大便とは全く違います。皆さんも食べたものの匂いが尿中に匂ってくる経験がおありでしょう。この大量の情報を捨ててしまうのは、いかにももったいないなあとき常々思っていました。尿療法には手が出ず、ホメオパシー的に利用できないかと思い、オーリングテストで、どんどん薄めながら良く振りながらチェックしていきました。

体に有害と出る尿が、次第に体に必要、とても必要、となっていく事がよく判ったのです。さらに経験的にヨーロッパの硬水と違い軟水の日本の水では情報が伝わりにくいため鉄分の多い岩塩（アンデスの岩塩）を、ごく僅か（塩味がしない程度）加えるほうが、良い情報水になるように思います。アトピー性皮膚炎の場合は皮膚自体がだんだん健康になっていきます。常に体のトラブルをあちこち抱えていた方たちも気が付いたら健康になっていた、薬を手放すことができた、CS（化学物質過敏症）で行けなかったスーパーにも行けるようになったなど、効果は、はっきりしてきています。ただやるかやらないかだけです。安全性は言うまでもありません。あなたは、どうしますか。